

Ⅱ 調査結果の概要

1 発育状態調査結果

(1) 身長

平成26年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表1)

男子の身長は、7～11歳及び16～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.8cm増加しており、最も増加しているのは11歳の0.8cmである。14歳は前年度と同じ。5～6歳、12～13歳及び15歳では、0.3～1.2cm減少しており、最も減少しているのは15歳の▲1.2cmである。

女子の身長は、前年度の同年齢より増加している年齢はなく、10歳、12歳及び16歳で前年度と同じ。それ以外の年齢では0.1～0.8cm減少しており、最も減少しているのは5歳の▲0.8cmである。

② 男女の比較(図1、表5)

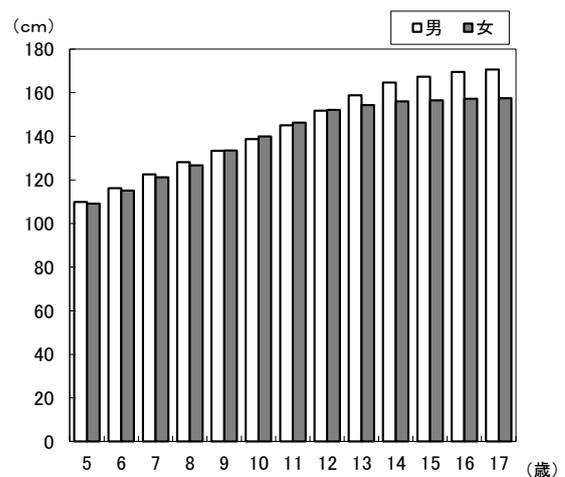
男女の身長を比べると、9～12歳で女子が男子を0.1～1.2cm上回っており、それ以外の年齢では男子が女子を0.7～13.2cm上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4)

全国平均値と比べると、男子は、7～8歳で全国平均値を0.1cm上回っており、11歳及び17歳では全国平均と同じ、それ以外の年齢では、全国平均値を0.1～0.9cm下回っている。

女子は、9歳及び12歳で全国平均値を0.1～0.3cm上回っているが、それ以外の年齢では、全国平均値を0.1～0.7cm下回っている。

図1 年齢別 男女別 身長の平均値



(2) 体重

平成26年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の体重(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表2)

男子の体重は、10～11歳で前年度の同年齢より0.2～0.3kg増加しており、最も増加しているのは10歳の0.3kgである。14歳と17歳は前年度と同じ。それ以外の年齢では、0.1～1.3kg減少しており、最も減少しているのは16歳の▲1.3kgである。

女子の体重は、10歳、14～15歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.8kg増加しており、最も増加しているのは14歳の0.8kgである。7歳及び12歳は前年度と同じ。それ以外の年齢では、0.2～0.7kg減少しており、最も減少しているのは11歳の▲0.7kgである。

② 男女の比較(図2、表5)

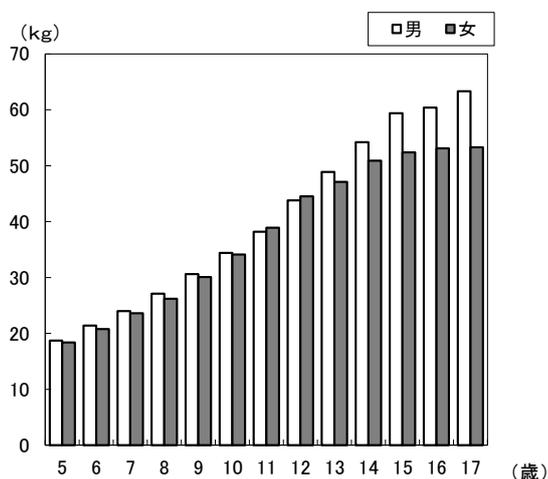
男女の体重を比べると、11歳と12歳でそれぞれ0.7kg女子が男子を上回っているが、それ以外の年齢では、男子が女子を0.3～10.0kg上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4)

全国平均値と比べると、男子は、6歳、8～10歳、13～15歳及び17歳で全国平均値を0.1～0.7kg上回っている。7歳では全国平均値と同じ、5歳、11～12歳及び16歳で全国平均値を0.2～0.3kg下回っている。

女子は、7歳、9～10歳、12歳及び14～17歳で全国平均値を0.1kg～1.0kg上回っている。6歳は全国平均値と同じ。それ以外の年齢では全国平均値を0.1～0.2kg下回っている。

図2 年齢別 男女別 体重の平均値



(3) 座高

平成26年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の座高(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表3)

男子の座高は、7～11歳、14歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.3cm増加している。16歳は前年度と同じ。5～6歳、12～13歳及び15歳では、0.1～0.7cm減少しており、最も減少しているのは15歳の▲0.7cmである。

女子の座高は、9～10歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.2cm増加している。15歳及び16歳は前年度と同じ。5～8歳及び11～14歳では、0.1～0.5cm減少しており、最も減少しているのは5歳と12歳の▲0.5cmである。

② 男女の比較(図3、表5)

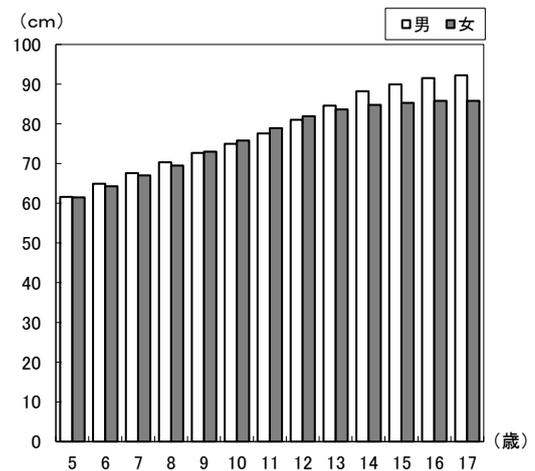
男女の座高を比べると、9～12歳で女子が男子を0.3～1.3cm上回っており、それ以外の年齢では男子が女子を0.1cm～6.4cm上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4)

全国平均値と比べると、男子は、6歳、8～10歳、14歳及び16～17歳で全国平均値を0.1～0.2cm上回っている。7歳及び11歳は全国平均値と同じ。5歳、12～13歳及び15歳では、全国平均値を0.2～0.5cm下回っている。

女子は、5歳、9歳及び16歳で全国平均値を0.1～0.4cm上回っている。10歳は全国平均値と同じ。6～8歳、11～15歳及び17歳では、全国平均値を0.1～0.4cm下回っている。

図3 年齢別 男女別 座高の平均値



(4) 県平均値における1年間の発育量

身長・体重・座高の県平均値について、各年齢時の1年間の発育量をみると、次のとおりである。(図4、表6)

① 身長

男子は、10～12歳時に発育量が特に増加しており、11歳時が最大となっている。

女子は、8～10歳時に発育量が特に増加しており、8歳時が最大となっている。

② 体重

男子は、11～14歳時に発育量が特に増加しており、11歳時が最大となっている。

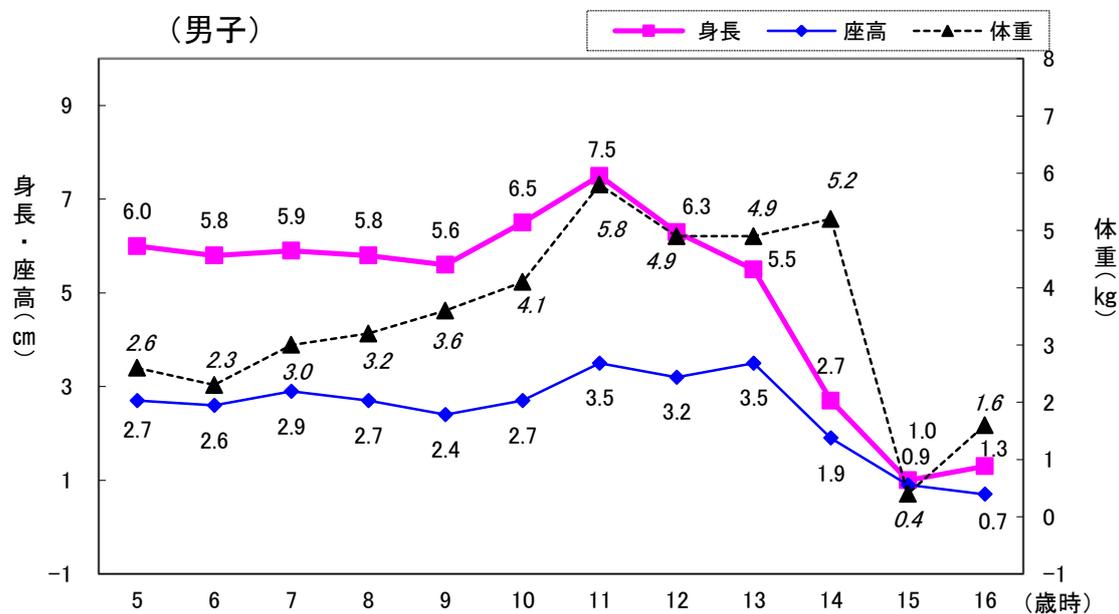
女子は、10～11歳時に発育量が特に増加しており、10歳時及び11歳時が同値で最大となっている。

③ 座高

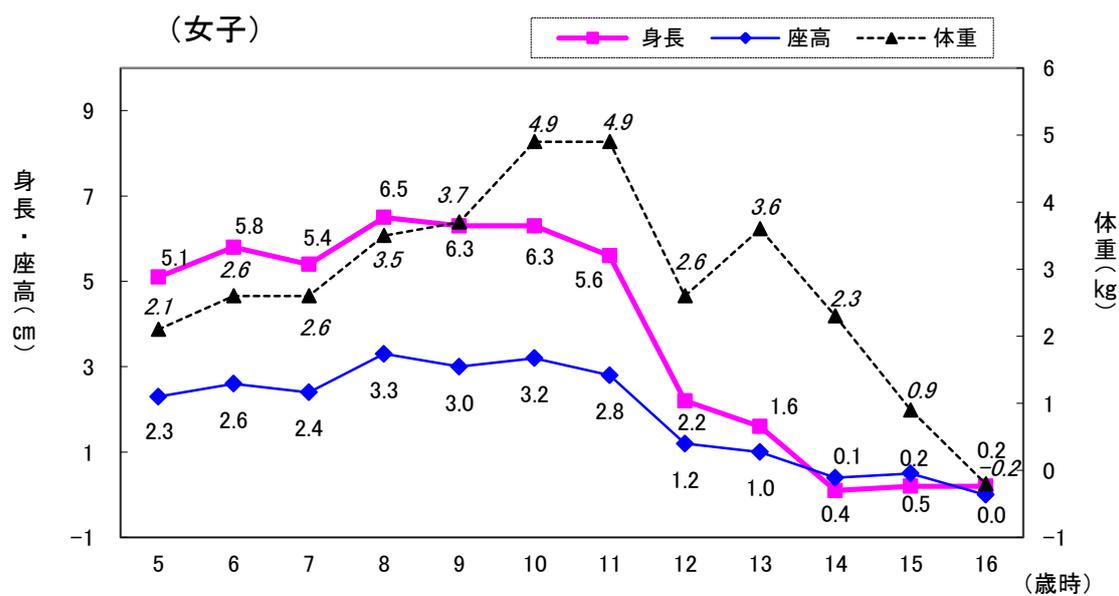
男子は、11～13歳時に発育量が特に増加しており、11歳時及び13歳時が同値で最大となっている。

女子は、8～10歳時に発育量が特に増加しており、8歳時が最大となっている。

図4 県平均値における1年間の発育量



注) 1年間の発育量…(例)5歳児の発育量は平成26年度の6歳児の県平均値から平成25年度の5歳児の県平均値を引いた数値。



(5) 県平均値における親世代（昭和59年度）との比較

身長・体重・座高の県平均値について、その親の世代である30年前の昭和59年度と比較してみると、男子では、5歳の身長・体重・座高、6～7歳の座高が親世代を下回っている。女子では、5～6歳及び14歳の身長、5～8歳の座高で親世代を下回っている。また、5歳の体重が親世代と同じ。それ以外は、男女とも各年齢において親世代を上回っている。（図5、図6、図7、表7）

① 身長

男子の身長を比べると、最も差がある年齢は13歳で、親世代より2.5cm高い。

女子の身長を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親世代より1.6cm高い。

② 体重

男子の体重を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親世代より3.4kg重い。

女子の体重を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親世代より2.4kg重い。

③ 座高

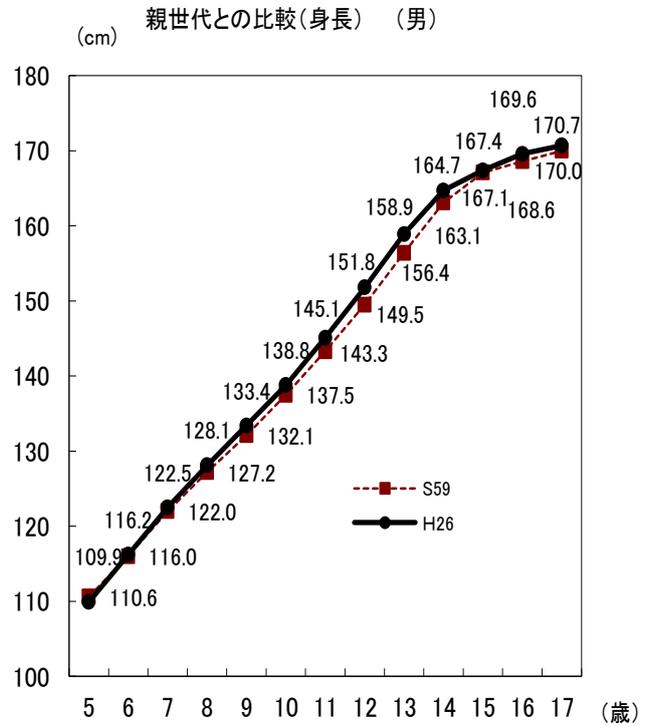
男子の座高を比べると、最も差がある年齢は13歳及び17歳で、親世代より1.6cm高い。

女子の座高を比べると、最も差がある年齢は17歳で、親世代より1.2cm高い。

なお、身長から座高を引いた足の長さ(下肢長)を比べると、男子では、5～14歳で親世代より長く、15～17歳では親世代の方が長くなっている。女子では、5歳及び7～12歳で親世代より長く、13～17歳では親世代の方が長くなっている。最も差があるのは、男子は11歳で親世代より1.1cm長く、女子は17歳で親世代より1.2cm短くなっている。

図5 県平均値における親世代との比較(身長)

身長 (cm) (男)		
	昭和59年度	平成26年度
5歳	110.6	109.9
6歳	116.0	116.2
7歳	122.0	122.5
8歳	127.2	128.1
9歳	132.1	133.4
10歳	137.5	138.8
11歳	143.3	145.1
12歳	149.5	151.8
13歳	156.4	158.9
14歳	163.1	164.7
15歳	167.1	167.4
16歳	168.6	169.6
17歳	170.0	170.7



身長 (cm) (女)		
	昭和59年度	平成26年度
5歳	109.5	109.2
6歳	115.7	115.1
7歳	121.1	121.2
8歳	126.5	126.7
9歳	132.3	133.5
10歳	138.8	140.0
11歳	145.4	146.3
12歳	150.5	152.1
13歳	154.2	154.3
14歳	156.2	156.0
15歳	156.2	156.5
16歳	157.2	157.3
17歳	157.5	157.5

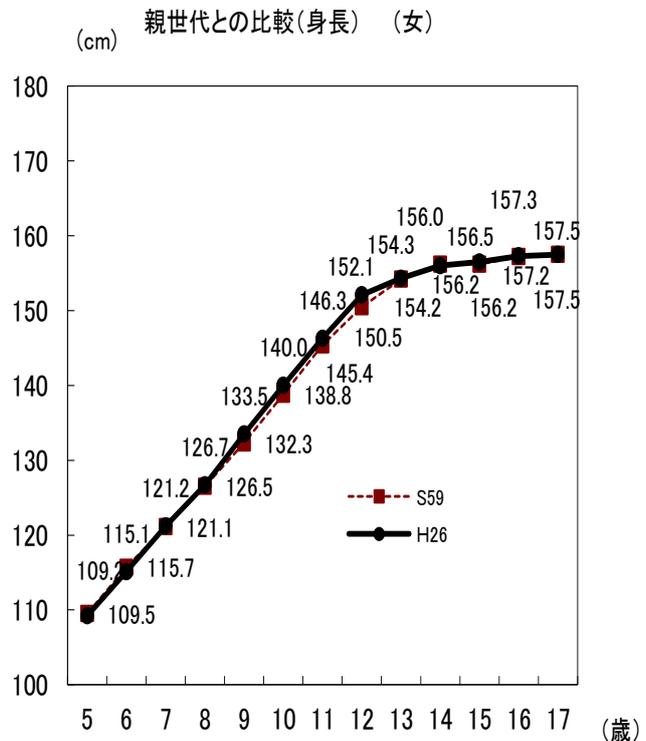
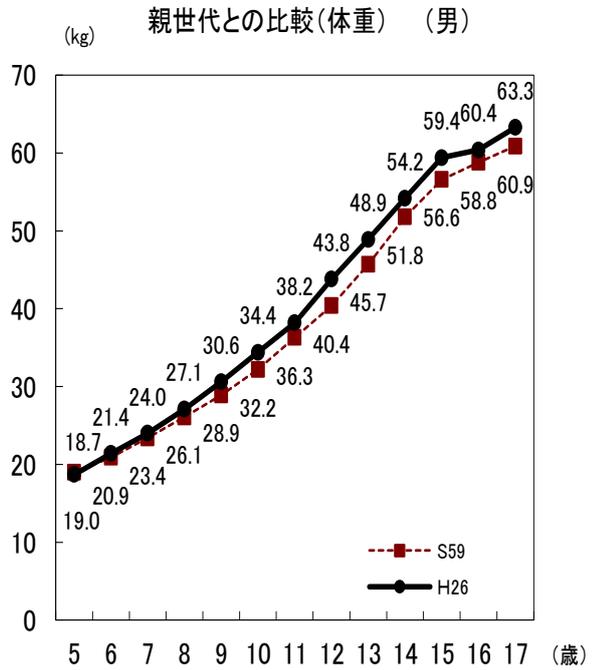


図6 県平均値における親世代との比較(体重)

体 重 (kg) (男)		
	昭和59年度	平成26年度
5歳	19.0	18.7
6歳	20.9	21.4
7歳	23.4	24.0
8歳	26.1	27.1
9歳	28.9	30.6
10歳	32.2	34.4
11歳	36.3	38.2
12歳	40.4	43.8
13歳	45.7	48.9
14歳	51.8	54.2
15歳	56.6	59.4
16歳	58.8	60.4
17歳	60.9	63.3



体 重 (kg) (女)		
	昭和59年度	平成26年度
5歳	18.4	18.4
6歳	20.7	20.8
7歳	22.6	23.6
8歳	25.5	26.2
9歳	29.0	30.1
10歳	33.0	34.1
11歳	37.6	38.9
12歳	42.1	44.5
13歳	46.5	47.1
14歳	49.6	50.9
15歳	50.9	52.4
16歳	52.1	53.1
17歳	52.9	53.3

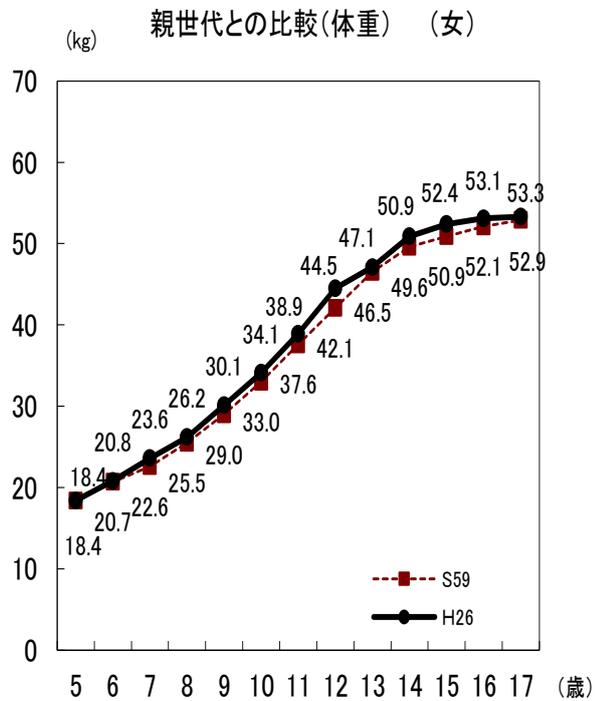
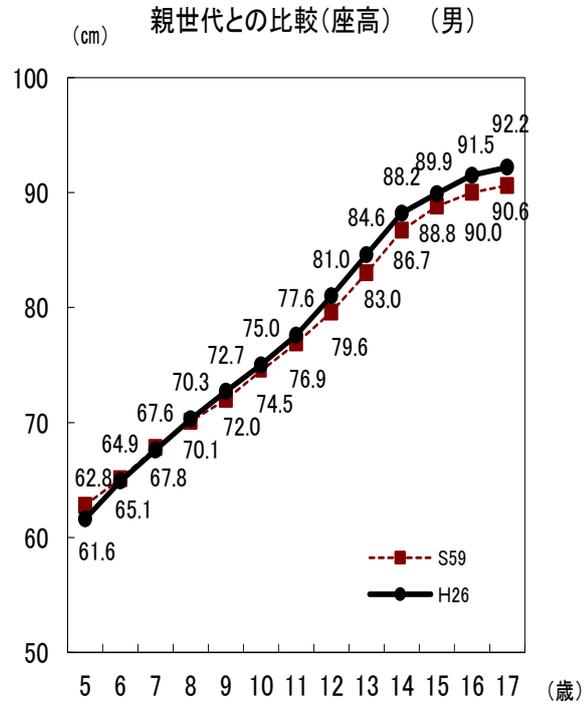
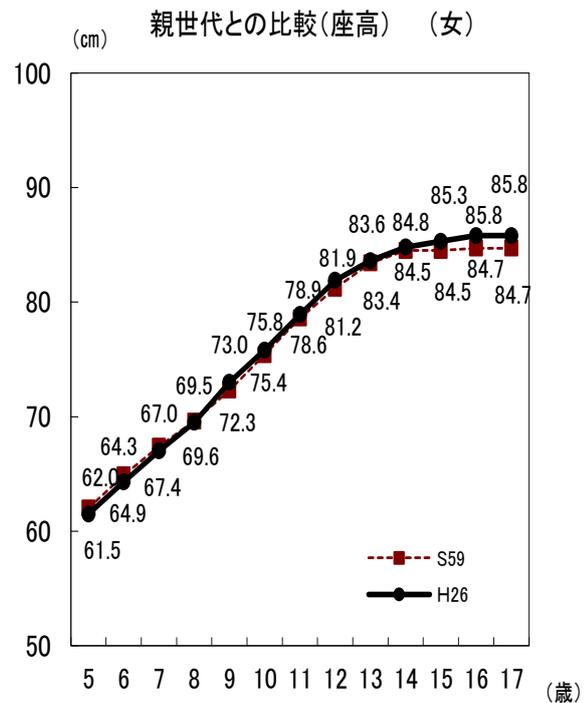


図7 県平均値における親世代との比較(座高)

座 高 (cm) (男)		
	昭和59年度	平成26年度
5歳	62.8	61.6
6歳	65.1	64.9
7歳	67.8	67.6
8歳	70.1	70.3
9歳	72.0	72.7
10歳	74.5	75.0
11歳	76.9	77.6
12歳	79.6	81.0
13歳	83.0	84.6
14歳	86.7	88.2
15歳	88.8	89.9
16歳	90.0	91.5
17歳	90.6	92.2



座 高 (cm) (女)		
	昭和59年度	平成26年度
5歳	62.0	61.5
6歳	64.9	64.3
7歳	67.4	67.0
8歳	69.6	69.5
9歳	72.3	73.0
10歳	75.4	75.8
11歳	78.6	78.9
12歳	81.2	81.9
13歳	83.4	83.6
14歳	84.5	84.8
15歳	84.5	85.3
16歳	84.7	85.8
17歳	84.7	85.8



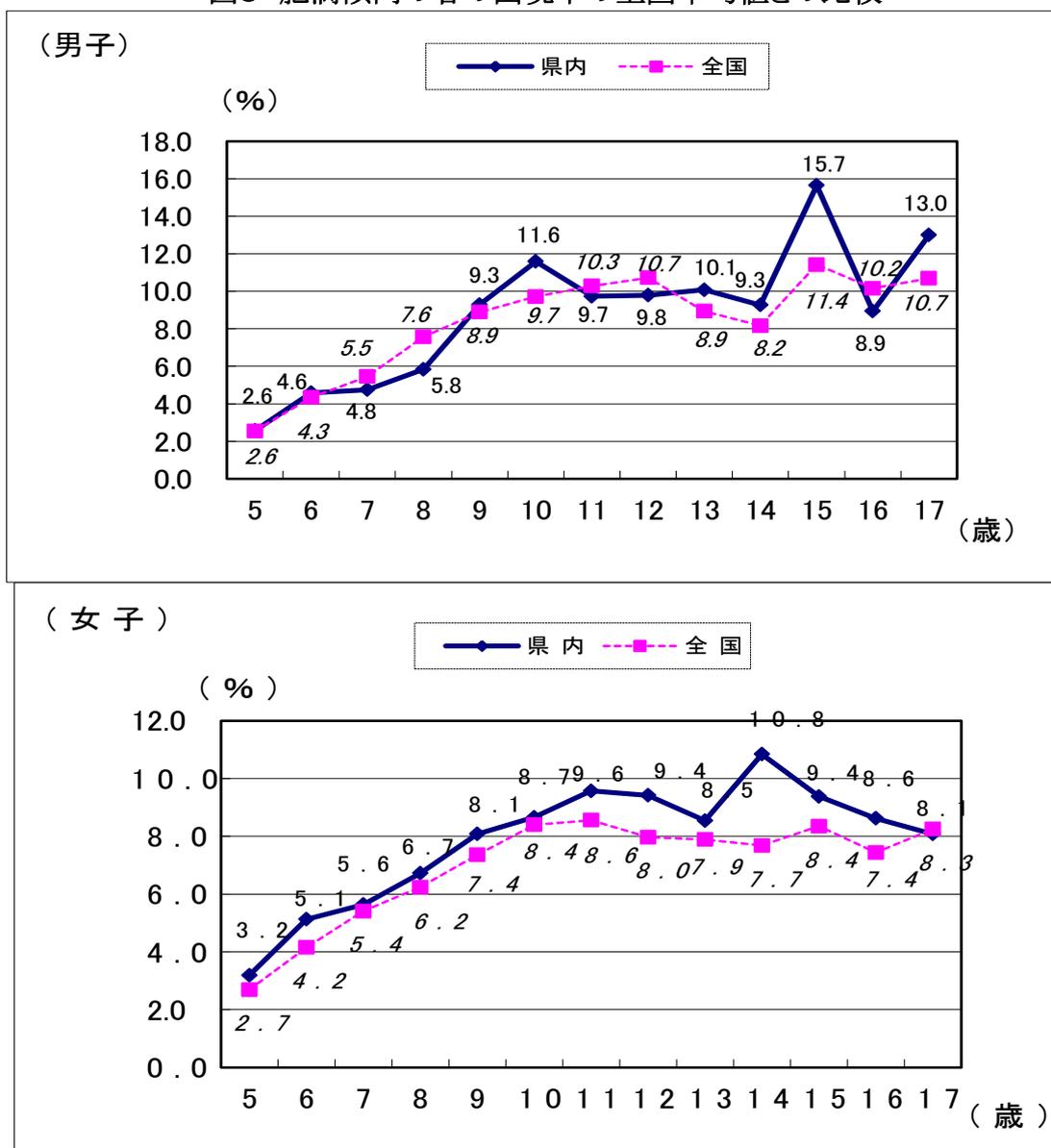
(6) 肥満傾向の者の出現率

県内における肥満傾向の者の出現率は、男子では、10歳、13歳、15歳及び17歳で10%を超えており、15歳の15.65%が最も高くなっている。女子では、14歳で10%を超えており、その値は10.84%となっている。(図8、表8)

肥満傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、5～6歳、9～10歳、13～15歳及び17歳で全国平均値を0.02～4.2ポイント上回っており、最も上回っているのは15歳で、その差は4.2ポイントである。7～8歳、11～12歳及び16歳では全国平均値を0.7～1.7ポイント下回っており、最も下回っているのは8歳で、その差は▲1.7ポイントである。

女子は、5～16歳で全国平均値を0.2～3.2ポイント上回っており、最も上回っているのは14歳で、その差は3.2ポイントである。17歳では全国平均値を0.2ポイント下回っている。

図8 肥満傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 肥満傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

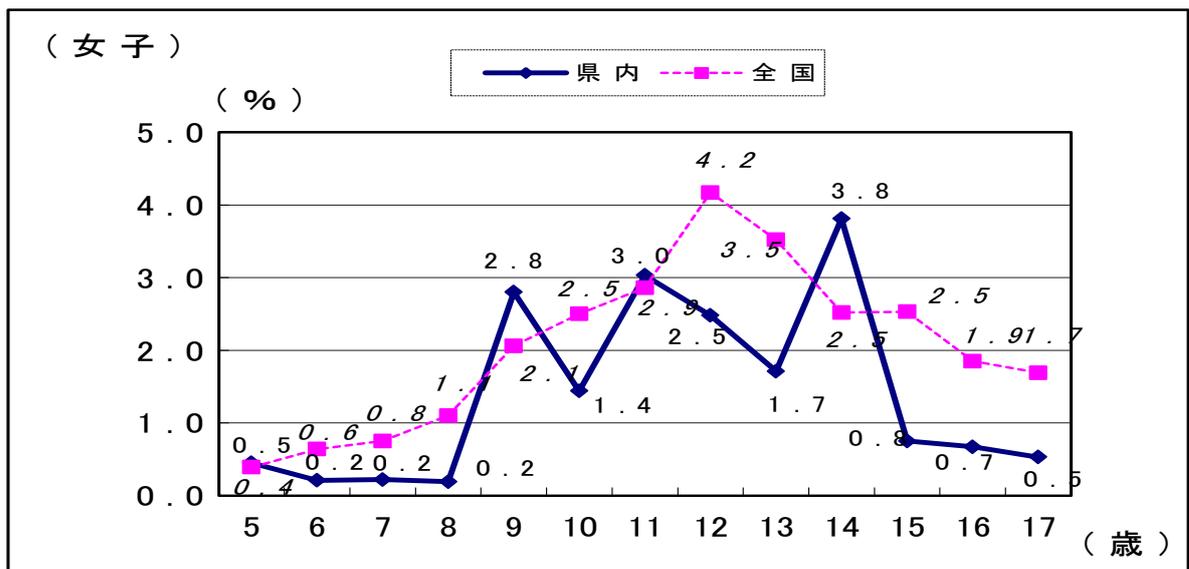
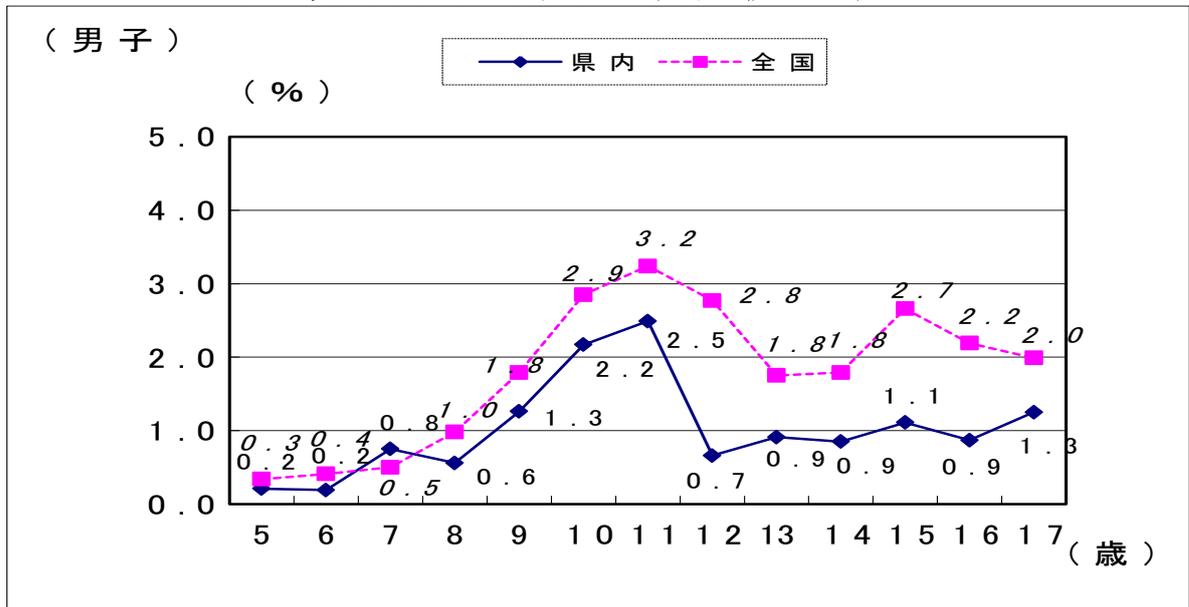
(7) 痩身傾向の者の出現率

県内における痩身傾向の者の出現率は、男子では、9～11歳、15歳及び17歳で1%を超えており、11歳の2.49%が最も高くなっている。女子では、9～14歳で1%を超えており、14歳の3.81%が最も高くなっている。(図9、表9)

痩身傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、7歳で全国平均値を0.3ポイント上回っている。それ以外の年齢では、全国平均値を0.1～2.1ポイント下回っており、最も下回っているのは12歳で、その差は▲2.1ポイントである。

女子は、5歳、9歳、11歳及び14歳で全国平均値を0.1～1.3ポイント上回っており、最も上回っているのは14歳で、その差は1.3ポイントである。6～8歳、10歳、12～13歳及び15～17歳では全国平均値を0.4～1.8ポイント下回っており、最も下回っているのは13歳及び15歳で、その差は▲1.8ポイントである。

図9 痩身傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 痩身傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

2 健康状態調査結果

学校保健統計調査では、発育状態とともに、健康状態も調査しているが、熊本県の主な特徴は以下のとおりである。

(1) 裸眼視力1.0未満の者

平成26年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校 29.5%、中学校 50.9%、高等学校 59.6%となっている。(表10)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると、小学校、中学校は前年度を上回っているが、高等学校は前年度を下回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を全国平均値と比べると、小学校、中学校及び高等学校とも全国平均値を下回っている。(表11)

(2) むし歯(う歯)

平成26年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園 49.7%、小学校 59.5%、中学校 51.5%、高等学校 58.3%となっており、年齢別では、12歳が48.4%と最も低く、9歳が67.2%と最も高くなっている。

また、処置完了者の割合は、5~8歳では未処置歯のある者を下回っているが、14~17歳では未処置歯のある者の割合を上回っている。(図10)

「むし歯」の者の割合を前年度と比べると、5歳では前年度を上回っているが、それ以外の年齢では前年度を下回っている。(図11)

「むし歯」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において全国平均値を上回っており、最も上回っているのは5歳で、その差は12.5ポイントである。(図12)

図10 むし歯(う歯)の者の割合

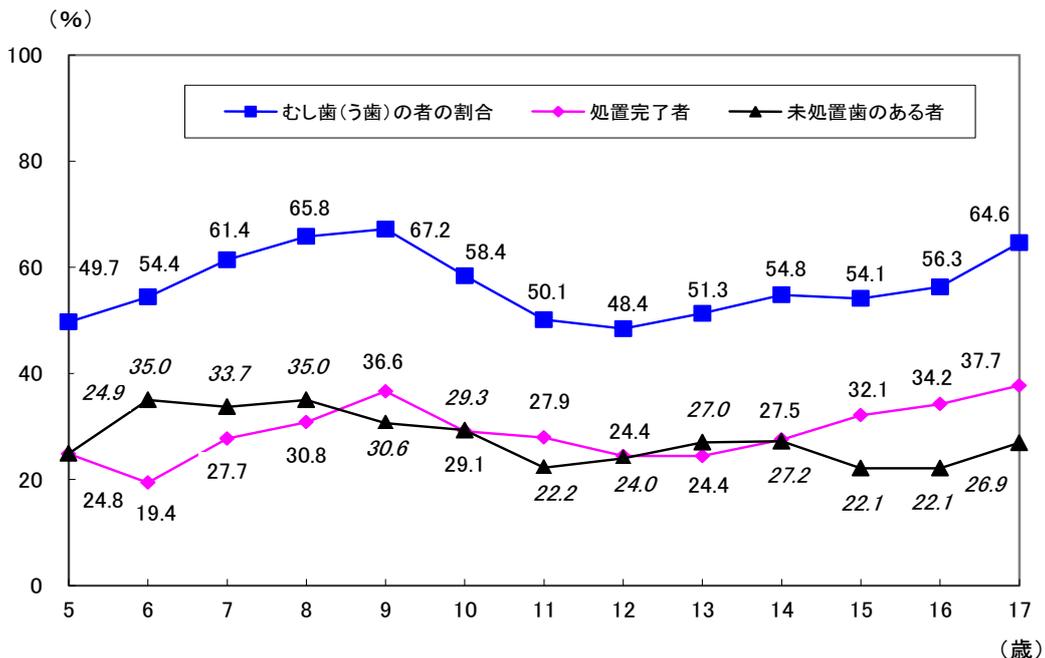


図11 むし歯(う歯)の者の割合の前年度との比較

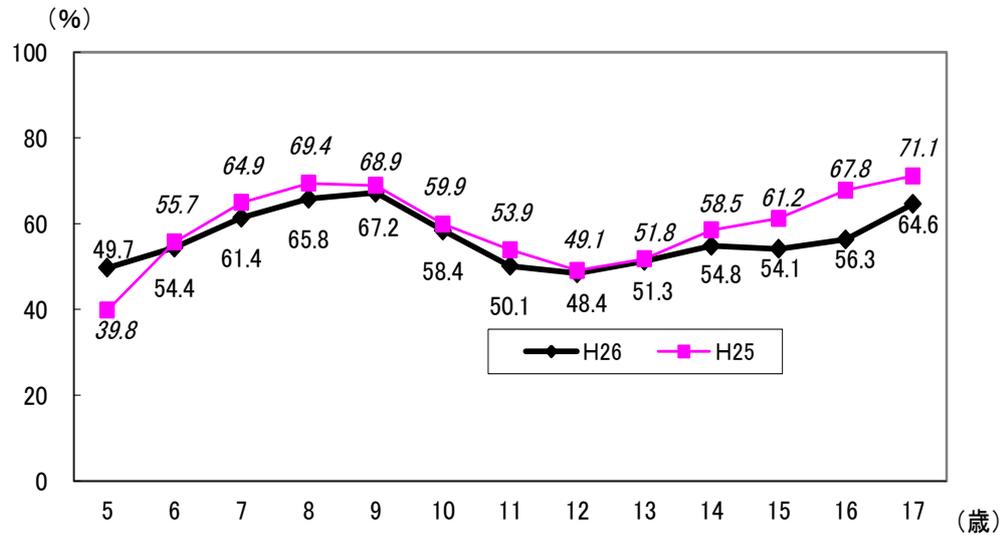
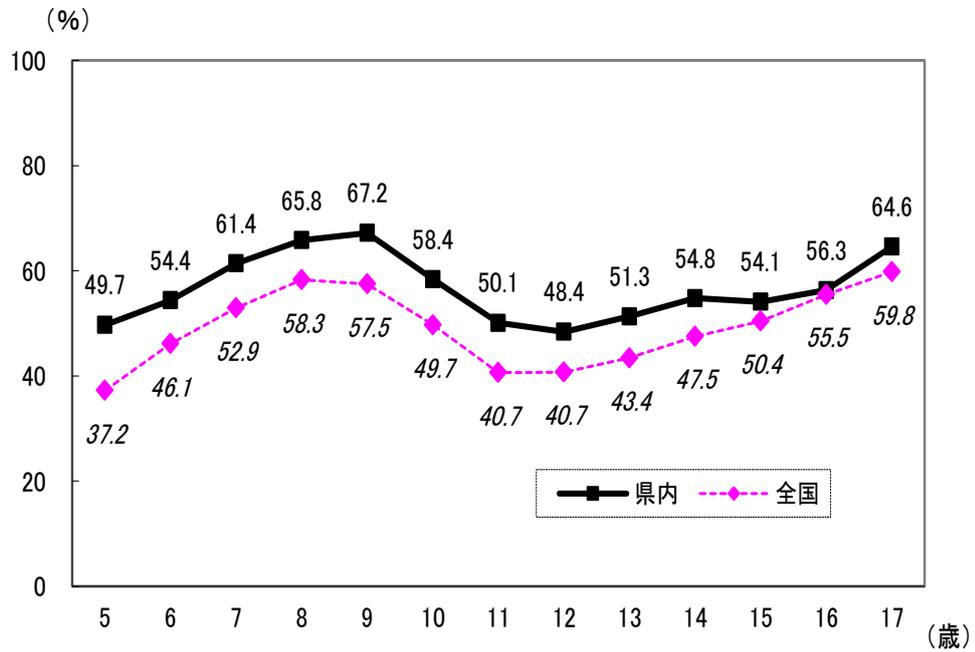


図12 むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較



(3) ぜん息

平成26年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園1.2%、小学校3.2%、中学校1.3%、高等学校0.9%となっており、年齢別では、10歳が4.4%と最も高くなっている。

「ぜん息」の者の割合を全国平均値と比べると、10歳では全国平均値を上回っているが、それ以外の年齢では全国平均値を下回っている。(図13)

図13 ぜん息の者の割合の全国平均値との比較

